

生命村長支え 遺志継いで

村勢功労のミキさん逝去

深澤晟雄夫人のミキさんが1月14日急性心不全のため急逝されました。17日浄円寺で行われた葬儀は、95歳の天寿を全うされたミキさんの村勢功労者としての功績を称え、感謝を込めた告別式となりました。

ミキさんは深澤村長が就任した昭和32年から39年まで沢内村婦人連絡協議会長を務め、新生活運動や学習

活動を通して女性の社会参加活動を促し、深澤村長の生命行政を支えました。

深澤村長亡き後も、その遺志を継いで保健・福祉・教育の分野で幅広く活躍され、1997(平成8)年旧沢内村勢功労表彰を受けました。葬儀で弔辞を述べた高橋

町長は「生命尊重の深澤精神は今日に受け継がれ、その記録映画も完成した。また深澤



グループホーム「ゆいっこ」で昔の映像に見入る深澤ミキさん(昨年11月25日)

晟雄資料館整備の動きも進んでいることを天国の深澤さんに伝えて欲しい。そして町の発展を見守って欲しい」とミキさんの遺影に呼びかけました。

「いのちの作法」が完成 上映会に1000人が入場



完成披露上映会初日の昼の部。沢内方面のバス到着前に満席となった上映会場。(1月26日 銀河ホール)

昨年夏から西和賀町を舞台に長期ロケを行った長編記録映画「いのちの作法」沢内「生命行政」を継ぐ者たち」が完成し、完成披露上映会が1月26、27日の両日、銀河ホールで行われました。上映会初日の昼の部に観客が殺到し、急ぎよ2回の上映を行い、夜の部とあわせて700人が入場しました。翌27日昼の部を含めると、2日間4回の上映会に1千人が入場する盛況ぶりでした。

県内各地で上映会の動きがあり、県内終了後全国上映に入ります。現在日程が決まっているのは次のとおり。
2月17日北上市さくらホール13時30分・17時30分の2回上映
2月23日盛岡市岩手教育会館13時15分
北上、盛岡近在の知人や親族に知らせてあげましょう。
また、一口5千円の制作協力金を募っています。ご協力いただいた方には、後日当作品のDVDが贈られます。
県内各地の上映会、制作協力金についての問い合わせは制作推進委員会(電話090・8593・0597)へ。

深澤語録を訪ねて



「村民の命を守るために 僕と一緒にやりませんか」

故加藤昭男村長が黒沢尻南高校沢内分校に在学中、教育長だった深澤晟雄は、同校の英語講師であった。ある日の英語の時間にむらづくりの課題「を語り始めた深澤晟雄の熱弁は、次の数学の時間になっても止むことを知らず、2時限にわたって語り続けたという。その時の深澤晟雄の言葉を引用して加藤村長が教育長時代に講演した講演記録がある。その記録から深澤語録のみを拾って段落で区切って紹介する。

(写真は現在の沢内庁舎裏にあった沢内分校校舎)

君たち、英語の教科書は今日は机の中にしまってください。そして、僕の話をもじくり聞きなさい。

君たちね、今のこの沢内でいいと思うか。このままでいいと思うか。

月口ケツトが飛ぶ時代に雪道をテクテクと歩かなければならない状態、医者にもかかれずに死んでしまう村人、生まれてきた赤ちゃんがコロコロと死んで行くような状態、これでいいのか。これは何とかしなければならぬことなんだ。

この状態を変えていくための課題は三つある。「豪雪と貧困と多病」の悪循環を断ち切ることだ。これを一つずつ克服しない限り今の暮らしは良くならないぞ。この野蛮条件を取り除かない限り村は変わらない。これは変えることができるんだ。そのためには「三貧追放」だ。体の貧困、経済的貧困、心の貧困の「三貧」

を追放するところから始めなければならない。

それができるのは教育だ。教育は教育でも社会教育なんだ。社会教育でも婦人層の意識を変えるところから始めなければならない。そして、若者たちだ。君たちのような青年、若者たちがまず、学習して意識を変えていくことだ。

政治というのは、人間の生命を尊重することが基本なんだ。私は村民の命を守るために一生を捧げたいと思うがどうだ。若い諸君が僕と一緒にやってくれませんか。(講演記録から原文抜粋)

(注) 深澤晟雄が沢内分校でこの講義をしたのは、氏が教育長時代とすれば昭和29年5月から31年9月までの「ある日」である。紹介した語録は全体が一つの文章に見えるが、講演では段落ごとに解説や講話などを挟んでいるので、前段と関係しない語録もある。

お知らせ 2月10日IBCラジオ21時30分、22時 「紅音の和んでくなんせ」で映画「いのちの作法」が紹介されます。

録集余録

「広報にしわが」が町民から募集した去年の十大ニュースで「深澤晟雄の会設立」が何と4位にランクされた。しかも

3位で大活躍の西和賀高校野球部にわずか4点差に迫る192点である。十大ニュースは応募者ごとに1位から10位までの10項目を1位10点、以下1点減で点数化した総合点で順位が決められる。点数比較なら4点差は確かに惜敗である。しかし、西和賀高校野球部は県大会でベスト8を競う歴史的な大活躍だった。それに比べ本会は発足したばかりで、まだ結果が出ていない。それを考えると4点差どころではない。隣の席に座らせてもらえるだけで名譽なことである。町民の本会への投票は「しつかりやれよ」という激励のメッセージに思えてならない。そのメッセージには深澤晟雄資料館開館の期待が込められている。行政・企業・町民との協働の輪を構築しながら皆さんの期待に応えたいと願う。